検査情報月報

2014 3月

横浜市衛生研究所

平成26年3月号　目次

【トピックス】

アレルギー物質を含む食品の検査結果（その2） …… 1

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告　平成26年2月 …… 3

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（平成26年2月分） …… 7

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2)

平成13年4月、食物アレルギーを持つ人の健康危害を未然に防止する観点から、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、アレルギーの発症数及び重篤度を踏まえ、卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かにの7品目が特定原材料として指定されており、横浜市でもこれら7品目の検査を実施しています。

今回は平成26年1月と2月に、食品専門監視班および福祉保健センターが市内製造所や小売店から収去(抜き取り検査)した検体について、そば、卵、乳の検査を、福祉保健センターが市内小学校の給食施設から収去したアレルギー物質除去給食について、卵と乳の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

1 そばの検査

そば粉やそば茶アイスクリームなどを製造している市内製造所からうどん粉等8検体を収去し、そばの検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、そばはすべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 そばの検査結果

検 体 名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
うどん粉	2	0
アイスクリーム類	4	0
アイスクリーム原材料	2	0
合計	8	0

2 卵の検査

アレルギー対応弁当などを製造している市内製造所や小売店から弁当・そうざい類等12検体を収去し、卵の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、1検体(スパゲティサラダ)が陽性(10ppm以上)となり、その他の11検体は陰性(10ppm未満)でした(表2)。スクリーニング試験で陽性となったスパゲティサラダについてウェスタンブロット法による確認試験を行ったところ、結果は陽性でした。食品衛生課が原因を調査したところ、このスパゲティサラダはアレルギー対応弁当の付け合せでしたが、原材料に卵黄の表示があるドレッシングを使用していたことが判明しました。

表2 卵の検査結果

検 体 名	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	9	1	1	1
菓子類	1	0	0	0
レトルト食品	1	0	0	0
魚肉ねり製品	1	0	0	0
合計	12	1	1	1

3 乳の検査

アレルギー対応弁当などを製造している市内製造所や小売店から弁当・そうざい類等9検体を収去し、乳の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、乳はすべて陰性（10ppm未満）でした（表3）。

表 3 乳の検査結果

検 体 名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	5	0
レトルト食品	3	0
菓子類	1	0
合計	9	0

4 学校給食の検査（卵と乳の検査）

市内小学校の給食施設から卵除去給食26検体、乳除去給食16検体を収去し、卵と乳の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、卵と乳はすべて陰性（10ppm未満）でした（表4、5）。

表 4 卵の検査結果（卵除去給食）

検 体 名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
五目焼きそば	10	0
みずなのスープ	6	0
かきたま汁	6	0
おでん	2	0
豆腐の中華煮	1	0
きつねうどん	1	0
合計	26	0

表 5 乳の検査結果（乳除去給食）

検 体 名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
ホワイトシチュー	8	0
スパゲティミートソースあえ	6	0
カレービーンズシチュー	2	0
合計	16	0

※ 検査法について

アレルギー物質を含む食品の検査は、まずELISA法によるスクリーニング試験を行います。ELISA法とは、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質（アレルゲン）を検出する方法です。しかし、食品の加工度合いや使用原材料によって、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行います。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告　2月

≪今月のトピックス≫
- インフルエンザ（B 型が主流）が流行しています。
- 麻しんの海外輸入例が首都圏で増加しています。

全数把握疾患　2月期に報告された全数把握疾患

レジオネラ症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2件	風しん	8件
後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	2件	麻しん	2件

＜レジオネラ症＞肺炎型1件の報告がありました。水系感染が推定されています。

＜アメーバ赤痢＞2件の報告があり、うち1件は腸管アメーバ症で国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう1件は腸管外アメーバ症（肝膿瘍）で、感染経路感染地域等不明でした。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞2件の古典型CJDの報告があり、どちらも診断の確実度はほぼ確実です。

＜後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）＞無症状病原体保有者2件の報告があり、どちらも同性間性的接触による感染が推定されていますが、感染地域等は不明です。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞80歳代女性1件（ワクチン接種歴不明）の報告がありました。肺炎が認められ、血清型は型別不能でした。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞3件（90歳代女性、80歳代男性、乳児）の報告がありました。そのうち、乳児1件（血清型検査中）はワクチン接種歴が4回ありましたが、90歳代女性（血清型6型）と80歳代男性（血清型11型）はワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。

＜風しん＞8件（男性3件、女性5件）の報告がありました。予防接種歴が1回確認されたのは女性2名（どちらも臨床診断例）で、他は予防接種歴が確認できませんでした。風しんは従来2月～3月の早春から初夏頃が流行時期なので今後の注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施（3月末まで）されています。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細（保健所）

＜麻しん＞2件の報告がありました。1件は乳児（ワクチン接種歴無し）で、海外渡航歴や海外での感染者との接触はありませんでしたが、遺伝子型でB3（海外由来の麻しんウイルスのタイプ）が検出されています。もう1件は20歳代女性（ワクチン接種歴不明）で、現在PCR等検査中です。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です（参考：麻しん臨時情報）。麻しんの予防には2回の予防接種が必要です。定期予防接種（1回目：1歳以上2歳未満、2回目：5歳から7歳未満で小学校就学前1年間）で、麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患　平成26年1月27日から平成26年2月23日まで（平成26年第5週から平成26年第8週まで。ただし、性感染症については平成26年1月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年　週－月日対照表	
第5週	1月27日～2月　2日
第6週	2月　3日～2月　9日
第7週	2月10日～2月16日
第8週	2月17日～2月23日

1　患者定点からの情報

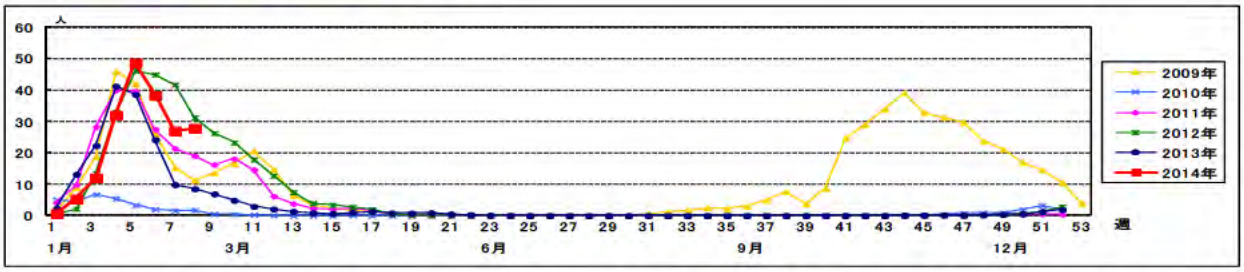
市内の患者定点は、小児科定点：92か所、内科定点：60か所、眼科定点：19か所、性感染症定点：27か所、基幹（病院）定点：4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告しま

す。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

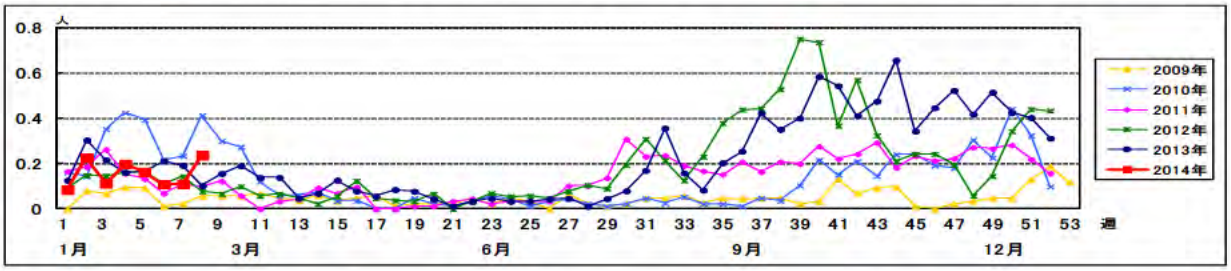
＜インフルエンザ＞市全体の定点あたりの患者報告数は、第5週の48.74をピークに減少を続けていましたが、第8週は27.90と、前週の27.05からやや上昇に転じました。迅速キット結果報告ではB型が増加しており、その影響と考えられます。衛生研究所で検出した結果では、B型（山形系統）が多く検出されています。また、衛生研究所でAH1pdm09型の61株を検査したところ、耐性ミックス株（275H/Y）（注：薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの（耐性ミックス株）が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。）が3株見つかっていますが、耐性株（275Y）は見つかっていません。

◆横浜市インフルエンザ臨時情報（衛生研究所）

◆インフルエンザ予防チラシ（横浜市）

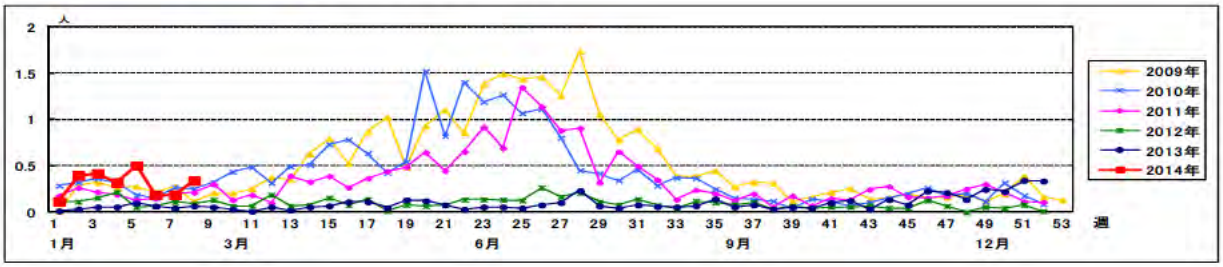


＜RSウイルス感染症＞第8週は定点あたり0.24と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。



＜伝染性紅斑＞第8週は定点あたり0.34と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。中区では2.00と、警報レベルとなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19（以下B19）感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常（胎児水腫）および流産があります。

◆伝染性紅斑について（国立感染症研究所）



＜性感染症＞1月は、性器クラミジア感染症は男性が26件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が2件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第5週0.00、第6週0.50、第7週0.25、第8週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件(鼻咽頭ぬぐい液46件、ふん便1件、嘔吐物1件)、内科定点22件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点4件(鼻咽頭ぬぐい液2件、髄液2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ35人、上気道炎6人、気管支炎4人、胃腸炎2人、伝染性紅斑1人、内科定点はインフルエンザ17人、咽頭炎3人、気管支炎、発熱のみ各1人、基幹定点はインフルエンザ、無菌性髄膜炎各2人でした。

3月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者34人からインフルエンザウイルスが分離されており、内訳は、AH1pdm09型9人、AH3型1人、B型(山形系統)20人、B型(Victoria系統)4人でした。また、上気道炎患者2人と気管支炎患者3人からインフルエンザウイルスB型(山形系統)、上気道炎患者1人からインフルエンザウイルスB型(Victoria系統)が分離されています。内科定点では、インフルエンザ患者16人からインフルエンザウイルスが分離されており、内訳は、AH1pdm09型8人、AH3型1人、B型(山形系統)4人、B型(Victoria系統)3人でした。また、発熱のみの患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型が分離されています。基幹定点では、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者1人からヒトコロナウイルスOC43型、1人からヒトコロナウイルス229E型またはNL63型とパラインフルエンザウイルス2型、気管支炎患者1人からヒトコロナウイルス229E型またはNL63型、胃腸炎患者1人からノロウイルス、内科定点の上気道炎患者1人からアデノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

＜細菌検査＞

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から4件で、病原菌は検出されませんでした。

その他の感染症は小児科から5件、基幹定点から6件、その他が15件でした。

(次ページに表)

表　感染症発生動向調査における病原体検査(2月)

感染性胃腸炎

検査年月	2月			2014年1月～2月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	0	4	0	0	32	5
菌種名						
赤痢菌						1
サルモネラ					24	
不検出	0	4	0	0	8	4

その他の感染症

検査年月		2月			2014年1月～2月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		5	6	15	9	7	40
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T6	1			4		
	T12	2			2		
	型別不能	1			1		
B群溶血性レンサ球菌				2			2
G群溶血性レンサ球菌							1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			2			3	
Legionella pneumophila				1			1
インフルエンザ菌				1			2
肺炎球菌				11	1		33
その他			4			4	1
不検出		1	0	0	1	0	0

＊:定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別):A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　検査研究課　細菌担当　】

衛生研究所WEBページ情報

（アクセス件数・順位　平成26年1月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事　平成26年2月分）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成26年1月のアクセス件数、アクセス順位及び平成26年2月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1　利用状況

(1) アクセス件数 （平成26年1月）

平成26年1月の総アクセス数は、209,423件でした。主な内訳は、感染症情報センター74.7%、食品衛生4.6%、保健情報7.0%、検査情報月報4.5%、生活環境衛生1.6%、薬事0.7%でした。

(2) アクセス順位 （平成26年1月）

1月のアクセス順位（表1）は、第1位が「衛生研究所トップページ」、第2位が「臨時情報」、第3位が「横浜市インフルエンザ2013/2014シーズンの流行情報」でした。

表1　平成26年1月　アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	衛生研究所トップページ	7,527
2	臨時情報	6,672
3	横浜市インフルエンザ2013/2014シーズンの流行情報	6,603
4	感染症発生状況	6,513
5	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	5,609
6	横浜市感染症情報センター	4,963
7	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	4,085
8	横浜市インフルエンザ流行情報 9号	3,498
9	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,461
10	インフルエンザについて	3,077

データ提供:総務局IT活用推進課

1月の総アクセス数は、前月に比べ12%ほど増加しました。今月の1位は、「衛生研究所トップページ」でした。全国的に、インフルエンザが流行しているため、10位内には、インフルエンザに関連するアクセス件数が多くを占めています。2位は「臨時情報」で、3位の「横浜市インフルエンザ2013/2014シーズンの流行情報」と同様に、インフルエンザへの関心が高まっています。

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A（一般の人向け）　平成24年10月改訂

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html

「衛生研究所トップページ」に関連する情報

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

「臨時情報」に関連する情報

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

「横浜市インフルエンザ2013/2014シーズンの流行情報」に関連する情報

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2013.html

(3) 電子メールによる問い合わせ （平成26年2月）

平成26年2月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2　平成26年2月　電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
食用赤色105号について	1	検査研究課食品添加物担当
PCR検査について	1	感染症・疫学情報課
PM2.5情報について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事 （平成26年2月）

平成26年2月に追加・更新した主な記事は、23件でした（表3）。

表3　平成26年2月　追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月 3日	感染症に気をつけよう(2月号)	掲載
2月 3日	ベトナムのこどもの定期予防接種について	更新
2月 5日	フィリピンのこどもの定期予防接種について	掲載
2月 6日	横浜市インフルエンザ流行情報11号	掲載
2月 6日	マルタ共和国のこどもの定期予防接種について	掲載
2月10日	ブルガリアのこどもの定期予防接種について	掲載
2月12日	ハンガリーのこどもの定期予防接種について	掲載
2月13日	横浜市インフルエンザ流行情報12号	掲載
2月13日	ルーマニアのこどもの定期予防接種について	掲載
2月14日	ポーランドのこどもの定期予防接種について	掲載
2月18日	フィンランドのこどもの定期予防接種について	掲載
2月18日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（平成25年）	掲載
2月19日	フィンランドのこどもの定期予防接種について	更新
2月19日	スウェーデンのこどもの定期予防接種について	掲載
2月20日	横浜市インフルエンザ流行情報13号	掲載
2月20日	麻しんの発生状況	掲載
2月20日	ノルウェーのこどもの定期予防接種について	掲載
2月24日	◆募集◆　衛生研究所検査研究課アルバイトを募集	掲載
2月24日	ルクセンブルクのこどもの定期予防接種について	掲載
2月25日	ルクセンブルクのこどもの定期予防接種について	更新
2月27日	横浜市インフルエンザ流行情報14号	掲載
2月28日	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について	更新
2月28日	チェコ共和国のこどもの定期予防接種について	掲載

【　感染症・疫学情報課　】